

日 時： 平成16年3月3日（水） 15：00～17：30

場 所： 建築士会 会議室

出席者：（常任理事） 南 利 幸
（委員長） 前 川 直 彦
（副委員長） 花 方 威 之
（出席委員） 今 井 淳 子 田 陽 裕 美 長 井 邦 夫
南 野 英 行
（オブザーバー） 児 玉 達 朗（青年委員会）
（事務局） 齋 専務理事 鷺谷 事務局長
（欠席委員） 岩 撫 忠 昭 栗 原 護 平 山 征 夫
吉 田 一 弘

報告事項（確認事項）

1. 平成15年度 第5回 総務企画委員会 議事概要について
特に意見なく、了承される。
2. その他
 - ① 連合会「政策・組織・財政改革」中間提言（案）に対する意見について
総務企画委員会の意見案を基に「正副会長会議」にて議論し、一部修正の上、2月26日付けで連合会に意見書を提出した旨事務局より報告があった。
 - ② 「福祉部会のあり方検討部会」について、討議状況について報告する。

議題

1. 建築士会の活性化と会員増強策について
 - ① 「アンケート調査」フォーマットについて、2案の提示があり、討議を行なった。

意見

- 性別、年代、氏名（無記名も可）について
 - ・会員番号の記入は不要とする。
- 入会後の年数について
 - ・選択肢として、「30年以上」が必要か。
A案では「20～30年」「30年以上」となっているが、B案では「20年以上」の選択肢となっているため、討議する。「30年以上」の区分が必要との意見がある。
 - ・「在籍期間」は「入会期間」ではどうか。
 - ・問の文面は、分かりやすく、優しい表現とした方が良い。

- 仕事・所属について
 - ・設計の分野は、建築、構造、設備等に細分化が必要かどうか。
 - ・施工の分野での細分化は不要か。

(検討結果) 建築士会会員の分野別構成では、設計・施工で3分の2を占めるので細分化したアンケートが必要。

建設業(施工)も細分化する。例えば、積算、現場管理等に

 - ・公社、公団、団体、法人は一括した分類にしてよいのではないか。
 - ・その他の「主婦」は不適當、「無職」ではないか。
 - ・「建材」の分類は必要か。
- 建築士会との関わり(事業に参加)について
 - ・「事業への参加」「不参加」の項があれば、「会費の支払い」の選択肢は不要ではないか。
- メリットについて
 - ・「業務上の格付け」は「業務・営業上に利点(名刺等への書き込み)」等の表現で、判り易くしたらどうか。
- アンケートの回収増加策について

(討議結果) 謝礼をする。

「先着20名様にQ U Oカード進呈」とあるのは、「抽選により、20名様に粗品進呈」とする。

結論

4月末日までにアンケートの回答(第1次)を回収出来るようにするため、今回意見を参考に、担当委員に様式確定を一任することとした。

3月20日までに、様式を確定し、4月号の会誌送付時に同封することとした。

- ② 前回配付資料に対する意見集約について

委員長より、資料に対するコメントの提示があり、意見交換を行なう。

意見

- 会費滞納者への会誌送付は早期に停止したらどうか(3年は長すぎる)
- 1年の滞納での打ち切りは早すぎる。滞納の意識無く、督促すれば納入してもらえる会員も多い。
- 高齢者の会費免除についても検討が必要ではないか。(会誌代:連合会に収める額程度への減額にしたらどうか。)
 - ・例えば、70歳以上かつ20年以上の在会会員は会費を半額とし、80歳以上の会員について会費を免除するなど。
- 強制退会者の多くは連絡も不能となっている会員が多い。
- 人件費と負担金とで会費収入に相当するということは、事業費に対する予算が殆ど無いということか。
- 負担金(支部交付金等)には、事業費として活用されるものも含まれている。

○ 特別会計だけでみると赤字となっているが、受託事業で赤字となることはおかしい。

会計上の処理は別として、実質的にどうなっているのか知りたい。

○ 14年度は、支出が収入をオーバーしているが単年度赤字か。また、その対応はどうなっているのか。

答：14年度単年度収支は赤字となっている。繰越金を充当して対応した。

結論

次回に、以前に提示した検討資料の課題・対応策について、改めてチェックし直し、討議することとする。